

しろくま通信



前回より「お盆」について書いています。

神通力が得意だった摩訶目犍連（まかもっけんれん）は通常「目連（もくれん）」と呼ばれ、舎利弗（しゃりほつ）とは隣村同士の出身で子どもの頃から仲が良く、「生きる本当の意味」を知りたいと、まだ釈迦に出会う前に、奇抜な理論を持ったサンジャヤという師に付きます。この師は「不可知論」を唱えています。文字通り「知ることが出来ない」という哲学で、「有るかもしれないし、無いかもしれない」というふうに「判断」と「言及」を避けるもので、右に左に手から手抜け出るつかみ所の無いと言う意味で「うなぎ理論」とも呼ばれています。この中に、「壁の理論」というものがあります。壁は遠くから見るときれいですが、近くに寄ると所々汚れています。他に、例えば油絵も離れて見ると素晴らしい絵画ですが、近くに寄ると濁色の違った油絵の具の集まりです。

もくれん
目連



しゃりほつ
舎利弗



前回のしろくま通信はホームページで観覧できます

<http://babayakkyoku.com/>

ホームページは「しろくま薬局」ですぐに検索！！

